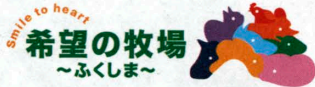


決死 救命 団結 —そして希望へ

BECO新聞



創刊号



創刊によせて

「BECO新聞の創刊」そして
新年おめでとうございます。

2011年3月11日からもうじき希望の牧場は4年目となります。今までに多くのみなさまからのご声援・ご協力があって、原発事故によって警戒区域内に取り残された被曝牛の命を、たくさんの餓死と殺処分^{*}の悲惨なあの当時の状況から救うことができました。経済的畜産動物としての黒毛和牛(肉牛)が、被曝によってその意味を失っても、命は大事にされるべきです。棄畜・棄民という国や社会の事故後のあり方が問わ



れています。
「白い斑点牛の原因は何か」という徹底的な解明を、これからも国・農水省に求めています。被曝の事実を牛によって調査する立派な意味がありますし、原発の時代への逆戻りが本当に始まろうとしている国への断固たる抵抗・抗議のシンボルともなっています。

やまゆりファームと希望の牧場との協力関係は昨年をもって終了しました。今後は希望の牧場が責任を持って

原発事故の生き証人・被ばく牛300頭とともに原発を乗り越える世の中を目指す、非営利一般社団法人「希望の牧場・ふくしま」

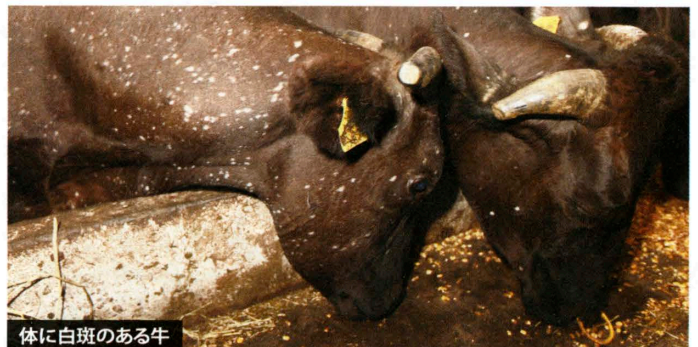
牧場内全頭の飼育管理を最期まで行います。牛の世話は牛飼いにしかできません。

常磐高速道が3月全線開通します。浪江インター下車により牧草ロールの運び込み・見学者が多くなり、ボランティア活動に好条件です。

安全・無事故で、希望の牧場の活動がより広く知られるように、みなさまとともに努力してまいります。

2015年1月

希望の牧場・ふくしま
代表 吉沢 正巳



体に白斑のある牛

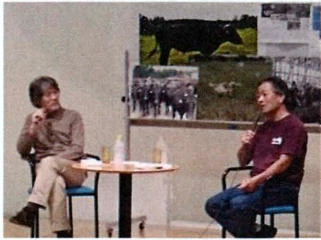
*斑点牛:希望の牧場で保護されている約300頭の被曝牛のうち約20頭に、写真のような白い斑点が出現した。農水省も調査に乗り出したが原因はいまのところ不明。牧場内の現在の空間線量は毎時3~5マイクロシーベルト(一般の人の想定される15年分の被曝線量)。白斑牛は事故直後から高いレベルでしかも長期間、被曝し続けている。

牛飼いが行く

被災地に残された命を繋ぐ旅

代表吉沢が宮崎県で3日連続講演と川内原発を視察

川内原発正門前で再稼働反対を訴える吉沢



増田氏との対談風景

10/25
(土)

増田常德氏と
公開対談
@高鍋町美術館

絵画展『増田常德展いのちの尊厳、そして希望』で、画家の増田常德氏と公開対談。「2010年に宮崎で流行した口蹄疫では、30万頭近くの家畜が殺処分されました。宮崎と福島、この東西の畜産農家の沈痛な境遇を想定外として葬ることはできません。経済優先の社会の陰で不条理がまかり通ることに憤りを覚えます」と増田氏。高鍋農業高等学校 畜産科の生徒さんから、「(売り物にならない牛の命を守るなんて)頭がオカシイと言われませんか。虚しさはないんですか」と質問された吉沢は、「何度も言われました。沢山の牛が死んだ。牛飼いなのに助けられなかった…」と答えていました。



酪農家の弥永さんとかたい握手

対談を終えた吉沢は、川南町の酪農家、弥永睦雄さんの牛舎を訪れました。川南町



は、県内の市町村で最も多い16万7千頭が殺処分された町です。「町中が葬儀場」と言われた日々—宮崎県は口蹄疫で地獄を見ました。私たち人間のために、多くの命が絶たれたのです」と弥永さん。吉沢は、殺処分された牛たちの慰霊碑を訪れ、手を合わせました。

10/26
(日)

川内原発再稼働
反対集会と講演会
@宮崎市総合福祉センター

川内原発正門前で吉沢が、「地震で壊れる原発、津波で爆発する原発はもうたくさんだ!」と抗議の声を上げ、そのまま再稼働反対集会へ。



宮崎市総合福祉センターでの講演会

被災地の実情に参加者に訴えました。そのあと宮崎市内へ移動。福島の子もたちの支援を続けている[NPO法人アースウォーカーズ]主催の講演会へ。「3年半経った今、宮崎に暮らす私達も、原発のもたらした事実と向き合い、私たちの目指すべき社会とは何なのかを共に考え、語り合しましょう」

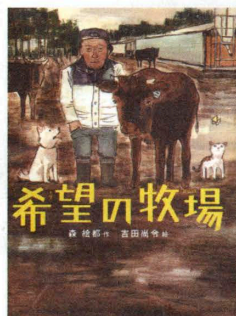
—主催者代表・小玉直也氏

10/27
(月)

講演会
@宮崎大学

農学部・獣医学部の学生さんから、「白斑牛」に関する質問や病気を発症した牛への治療体制、飼育費用など専門的な質問も飛び出し、あつという間の2時間でした。家畜の避難はもちろんのこと、人間の避難計画さえ未完のまま、川内原発が再稼働されようとしています。宮崎と福島が経験した“地獄”を再び起こすことは絶対に阻止しなければなりません。一国の偉大さ、道徳的發展は、その国における動物の扱い方で分かる。(マハトマ・ガンジー)

「希望の牧場」が、すてきな絵本になりました!



いのちのえほん23
「希望の牧場」

作：森 絵都
絵：吉田 尚令
岩崎書店
1,620円(税込)

※売り上げの一部が「希望の牧場」に寄付されます。

牛飼いの言葉の芯にあるもの。

著者は、直木賞作家の森絵都(もりえと)さん。上梓後、こう書いています。一戦い続ける『希望の牧場』のすがたを、「悲しみ」ではなく「強さ」をこめて絵本に残せたらと考えました。(『岩崎書店』ホームページ)

※著者の森絵都さんは、売り上げの一部とは別に、30万円を『希望の牧場』に寄付してくださいました。

デントコーンをいただきました!

南相馬市の農家さんから、4町歩・120トン相当



デントコーン

10月下旬、隣町南相馬の農家さんからデントコーンとソルゴー(飼料用作物)を無償でいただきました。その量なんと4町歩・120トン相当! まずは残っていた稲わらを、日ごろ食い負けしている牛たちに与え、空いた堆肥置き場を清掃して保管場所にしました。この日のボランティアさんは、「ウイズキャトル」の永澤さ



稲わらを牛たちへ

んと和田さん、個人でご参加くださったNさんとKさん。家畜車で何度も牧場内を往復して下さり、本当に助かりました。

そして、いよいよ真っ黄色に実ったコーンの収穫です。刈り取りは、地元農家さんがご厚意で引き受けてくださいました。茎・葉・実を丸ごと細断して大きなカゴのなかに吹き込みます。その作業の早いこと! ダンプ2台で畑と牧場を16往復して運びました。牧場では、次々に届くコーンを重機と足踏みで丁寧に鎮圧。

難しい作業でしたが、日が暮れる頃には美しい“宝の山”ができあがりました。

今回デントコーンを提供してくださった農家さんに、「油代くらい払わせてください」と申しあげたら、「要らねえよ。少しでもできることがあればと思ってる」。また、ダンプを無償で貸して下さった松村直登さんは、「助け合いだから。俺だけ助かるうなんて思わないよ」と。

「苦楽を共有することで、み

んなの心が通じ合ったんだろうなあ」と嬉しくなった一方で、先の見えない餌不足問題への不安を抱えながら、デントコーン大作戦は無事終わりました。農家の皆さん、ダンプを貸して下さった松村さん、ボランティアのみなさん、獣医の伊東先生、「ウイズキャトル」さん、ご協力くださったすべてのみなさん、ありがとうございました。



作業完了!

牧場は今

餌のストックは残り一ヶ月を切った。果たしてこの冬を越すことはできるだろうか。そんななか・・・「生まれたよ!」。伊東獣医の腕の中に子ペコが1頭。この冬、5頭目の新しい命だった。去勢失敗、人間の完全なる敗北である。「イヴ(♀)」と名付けた。この子と一緒にいると気持ち明るくなる。希望を信じて諦めない。



放牧場で保護されたイヴ

何のための除染か



牧場近くの仮置場

希望の牧場が立地する南相馬市と浪江町では、昨年春頃から本格的な除染が始まった。しかし環境省によると南相馬市内では除染の必要な土地の約3割の地権者が除染に同意していないという。希望の牧場の放牧地もまだ手付かずだ。国と東電は「被曝牛を生かすことは自己責任でどうぞ」と言い、除染によって失われる放牧地に生える牧草の担保、原状回復の保障を一切認めようとしない(東電と国に対し、法的手続きを検討中)。現在の危機的な餌不足のなかで除染に同意することは牛たちを見捨てることに等しく、「除染には応じない」これが吉沢の出した結論だ。除染が理由で放牧地の移転や牛の殺処分にも同意せざるを得なかった仲間もいる。周辺住民から「いつまで牛を生かしている!復興の邪魔だ!」そうはっきり言われたことも。国の都合による迷惑除染で被災者の孤立化がとまらない。希望にとって2015年は正念場になる、間違いない。

“イチエフ”から14キロ地点で考える ①

SUPPORTER'S EYE サポーターズ・アイ

“希望の牧場・ふくしま オリジナル手ぬぐい” サポーターのranaさんが作ってくれました!



広大な牧場には、震災以前と変わらずに牛たちがいて草を食べています。そんな自由な姿を手ぬぐいにしました。今回「BECO新聞」創刊号の特典として、2,000円以上ご寄付頂いた方の中から、先着50名様に差し上げます。牛たちのためにご協力よろしくお祈いします。(rana)

☆詳しいお振込方法は、裏面にある「ご寄付のお願い」をお読みください。

希望の牧場・ふくしま 基本情報 [見学大歓迎]

○アクセス

「希望の牧場」は、地図上の表記は「吉沢牧場」になります
〒979-1501 福島県双葉郡浪江町立野春卯野157

- ・東京方面から車利用の場合
常磐道富岡 IC下車、約1時間
- ・福島駅から高速バス利用の場合(詳細は各バス会社にお問合せください)
福島ー南相馬(片道1,300円、約2時間)
はらまち旅行 TEL.0244-23-2964
福島交通 TEL.0245-31-2706

○牧場の情報はブログ・ツイッターで

- ・ブログ <http://blog.goo.ne.jp/kibouno-bokujyou>
- ・ツイッター @kibounobokujyou で検索



希望の牧場・ふくしまからご寄付のお願い

～お寄せいただいたご寄付は、
牛たちの命をつなぐため大切に使います～

- (1) 旧警戒区域内に取り残された被ばく牛の保護・飼育
- (2) 今後の放射能災害の予防に貢献し得る、貴重な科学的データを集積するための研究や調査のサポート活動
- (3) 自身の被ばくを顧みず牛の世話を続ける農家の支援など

●お振込方法・・・ゆうちょ銀行口座へ

①振込用紙から(創刊号特典あり!)

必ず「BECO新聞」に同封されている振込用紙をご利用の上、2,000円以上ご寄付いただいた方の中から、先着50名様に「希望の牧場・ふくしま」オリジナル手ぬぐいをお送りいたします。(色はおまかせください)

②ゆうちょ銀行の通帳、キャッシュカード、ネットから

- ・記号：00830-2
- ・番号：184133
- ・名義：一般社団法人 希望の牧場・ふくしま

③他の金融機関から

- ・店名：〇八九(ゼロハチキュウ)店
- ・店番：089
- ・種目：当座
- ・番号：0184133
- ・名義：一般社団法人 希望の牧場・ふくしま

●お振込方法・・・三井住友銀行口座へ

- ・店名：渋谷駅前支店
- ・店番：234
- ・種別：普通
- ・番号：4486384
- ・名義：一般社団法人 希望の牧場・ふくしま




創刊号はいかがでしたか？あなたの率直なご意見ご感想など、何でもお寄せください。また、本誌は年3回発行予定、定期購読をご希望の方は下記のアドレスへメールでお申し込みください。 beconews2014@gmail.com

個人情報の取り扱いについて「BECO新聞」は、サポーター登録をして頂いた方、名刺を頂戴した方などにお送りしています。当団体は、サポーターさまの個人情報の保護に細心の注意を払っております。万一問題が生じた場合は速やかに対処いたします。

*「BECO新聞」の【BECO】とは、被爆牛とともに生きる私たちの仲間になってほしいという願いを込めて、【べこ(牛)】と【仲間になる(become a member)】ふたつの意味をかけて名付けました
<編集スタッフ> 針谷勉(P)、上田のぞみ(GA)、逢坂龍(C)、柴田明美(D)

希望の牛っこ



Vol.1
ガガちゃん♀

震災直後、希望の牧場に歩いてやって来たところを吉沢が保護。レディガガよりその名をもらう。人間には強気なのに、黒毛牛には弱気で食い負け。なのでいつも腹ペコ。最近餌やり中の吉沢お姉さんに体当たり。記憶が飛び頭部打撲で入院。それでも、ガガちゃんに優しいお姉さんでした。

2015 写真展・講演会

1/31(土)「福島生きものの記録」上映会&トークショー
場所：二本松市勤労者研修センター
主催：UK 実践塾 TEL：042-748-2423

3/11(水)「ポスト3.11子どもたちの未来、子どもの本の未来」シンポジウム
場所：青山女子短期大学
主催：日本ペンクラブ TEL：03-3496-2177



牧草ロールを探しています!

希望の牧場・ふくしま
[牧草ロール]ホット・ライン

TEL.03-3496-2177 針谷(ハリガヤ)
✉ kibouno.bokujyou@gmail.com

牛たちの餌に赤信号が点滅しています。牛達の命は、継続的な牧草ロールの確保にかかっています。ご提供いただける牧草ロールがあれば、まずは上記の電話かメール宛で一報ください。(無償・有償、輸送の方法・費用などについてはご相談させていただきます)

牛って1日どのくらいの牧草食べるの?いくら位かかるの?

<牛たちは牧草ロール(約300kg)を、1日に8~10個食べます>

- ・1日に食べる牧草代・・・1個約3,000円×10個=30,000円
- ・1ヶ月だと、約300ロール……………900,000円
- ・1年だと、約3,600ロール……………10,800,000円

年間
約1,000万円



例えば…
2,000円
家畜用鉱塩1個



3,000円
牧草ロール1個



5,000円
薬・治療代/日

全国の書店・ネットでも好評発売中!

『**原発一揆**
警戒区域で闘い続ける“べこ屋”の記録』

針谷 勉著、サイズ、価格:1,404円(税込)

※本書の売上げの一部は、当プロジェクトの活動に充てさせていただきます

smile to heart

希望の牧場

～ふくしま～



[発行] 非営利一般社団法人 希望の牧場・ふくしま
事務局/〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-22-7-4F
TEL:03-3496-2177 FAX.03-3496-2188
E-Mail: kibouno.bokujyou@gmail.com